

水虫

ジメジメして蒸し暑い梅雨時から夏場にかけては、水虫になりやすい時期ですので予防についてのお話をします。

保健師からの

ちょっといいはなし!

自己紹介：
趣味は、相撲を見ることと
茶道です。
どうぞよろしくをお願いします。



水虫とは？

水虫は白せん菌というカビが原因で起こる感染症のことをいいます。白せん菌は、高温多湿な場所が大好きです。また、靴や靴下を長時間履き続けていると、皮膚が汗ばみ蒸れた状態になります。そのような皮膚は、白せん菌にとって格好の住み家です。

水虫の感染経路

白せん菌の感染力はそれほど強くありません。空気感染や直接接触による感染はほとんどないと考えられています。しかしながら、水虫のかたが落とした皮膚のあかなどが別の人の皮膚に付着することで感染しますので、複数の人が使うバスルームの足ふきマットやスリッパなど湿った暖かい場所は要注意といえます。

足水虫

趾間(しかん)型

水虫の症状で最も多いタイプで、足の指の間(趾間)が白くふやけてかゆくったり

赤く腫れ痛みを伴うことがあります。

小水疱(しょうすいほう)型

5月から梅雨時にかけて目立って増えてくる水虫の症状で、激しいかゆみを伴うのが特徴です。土踏まずや足の横の面に赤みを伴った小さな水疱がポツポツできてきます。水疱は1週間ほどで乾燥して皮がむけてきますが、ひとつの水疱が消えても、また別の場所に新しい水疱ができて、少しずつ広がっていきます。あせもやかぶれと症状が似ているのも特徴です。

角質増殖型

足の裏、特にかかとの部分の角質が厚くなり、表面がザラザラになって皮がむけてくるタイプの水虫です。かゆみは少なく、1年を通して症状の大きな変化はありませんが、冬にあかぎれやひび割れができることもあります。

治療方法

塗り薬を主体とした治療になります。皮膚の角質層が新陳代謝によって入れ替わるのは約1か月といわれているので、薬を塗り続ける期間も最低1か月は必要です。

爪水虫

白せん菌が爪の中に侵入してきて起こる水虫です。親指の爪に多く発症し、症状はさまざまですが、爪が白く濁ったり、変形したり、ぼろぼろかけたりするのが特徴です。

治療方法

飲み薬が効果的です。なぜなら、爪水虫では、塗り薬を使っても、爪の中に薬の成分が届きにくいいため、治りにくいからです。効果的に薬を患部に到着させる点で優れているのが飲み薬です。

水虫の予防

- 毎日、良く洗い患部を清潔にしましょう。
- 蒸れにくく、爪に負担をかけるない靴を履きましょう。
- 室内を清潔にし、湿りやすい浴室の足ふきマットやスリッパを洗い、乾燥させるようにしましょう。

自覚症状だけでは水虫でない場合もありますので、自分で判断せずに、必ず皮膚科専門医を受診しましょう。

来年が楽しみです

門平圭司さんの畑一面に、毎年花開くスイセン。このスイセンを日野沢ふれあい広場や秩父ミュージックパークに移植し、より多くの皆さんに楽しんでいただこうと、町とちちぶ花銀行などの協働によりスイセンの球根掘り取りを行いました。

スイセンは圭司さんが高校生のころ植えられたもので、年月を経て畑いっぱい広がったとのこと。掘り取りには2日間で延べ50人が参加。約150箱の球根が取れました。

